

# 実際の授業場面を想定して、

# 教員を先生・生徒役に分けて行う「実践型研修」

B:校内研修Ⅱ型 (講師設定型の研修)

### このような教員の姿が生まれました!

- 日常的に「こんな活用してみた。」という、教員間の交流が増えました。
- 「この教科や授業でも使ってみよう。」という、意欲的な教員の姿が増えました。

### 放課後の教室で、研修を行う

## ICT 活用推進担当が先生役、他の教員が生徒役とな り、「協働学習支援ツール研修」を行う。

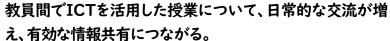
- ·ICT 活用に不安を感じている教員を中心に研修を行い、難 しさを感じている点を共有しながら、操作の仕方を研修す
- ・近くにいる教員と相談しながら活動できるような雰囲気で 行う。



#### 「協働学習支援ツール研修」を行う際のポイント

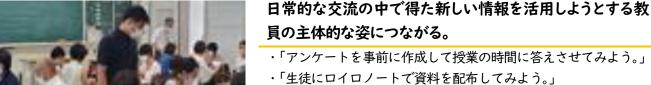
▶ ICT活用推進担当から説明する時間を極力減らし、実際の授業場面を想定して、協働学習支援ツールの効果的 な活用方法についての操作活動を重視する。

#### 「協働学習支援ツール研修」による効果

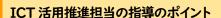




- ・「今日、理科で次の単元に関するアンケートをロイロノートで作 成して、生徒に答えさせてみた。」
- ・「ロイロノートでアンケートを作るにはどうすればよいのか?」
- ・「生徒の画面を他の生徒に画面共有して、生徒自身が画面操作を しながら、みんなに説明できた。」
- ・「資料を生徒と共有するには資料箱に入れておけばよいのか?」
- ※上記のような ICT 活用についての会話が増え、情報共有が日常 的に行われるようになった。



- ・「生徒自身の倒立前転の様子を生徒に動画で録画させて、提出箱 に提出してもらおう。」
- ※上記のような ICT 活用に意欲的な姿が職員室で見られるように なった。



実際の授業で実践した教員の話を聞く中で、その教員の意図を共有しながら、全体でも活用方法を共有できるよ うにしていく。



